

第16回国際交流フェスティバル 「草加国際村一番地」開催

6月23日、第16回国際交流フェスティバル「草加国際村一番地」(主催・草加市国際交流協会、共催・獨協大学)が、本学キャンパスで開催された。世界各国出身の草加市民が本学学生とともに、自国の文化・料理・音楽・ダンスや民族衣装を披露し、来場者との交流を深めた。

「ワールド・ランゲージ」という企画には、海外協定校からの留学生が参加し、各国の言語で高校生や市民、子どもたちとの会話を楽しんだ。本学学生団体やゼミも多数参加し、研究発表や交流型イベント・ジャグリング・フリーマーケットや物販等が多くの来場者の注目を集めた。

当日は老若男女約6000名が来場し、本学で毎年開催される国際交流イベントを楽しんだ。



ワールド・ランゲージには草加高校の生徒50名を含む、約260名が来場。高校生からは「留学生とテーブルを囲んで会話ができて良い雰囲気だった」「近い距離で話したので緊張したが、良い経験になった」とのコメントがあった。

梅雨空に負けないほど活気のある屋台。バラエティに富んだ世界各国のメニューや本場の味を楽しもうと各屋台には長い列ができていた。



第13回フランス語学科企画コンサート 開催

6月23日、天野貞祐記念館大講堂において、外国語学部フランス語学科企画コンサート「エリック・サティ フランスでいちばん尖った音楽家!?!」が開催され、約550名が来場した。

エリック・サティは、クラシック音楽の枠組みを超え、現代音楽につながる先駆的な試みをかさねたフランス人作曲家として知られる。今回は、そのピアノ曲を中心に紹介し、守田絢子氏によるソロ演奏、渡辺秋香氏との連弾が披露された。バレエ音楽『パレード』では、打楽器奏者の高口かれん氏、新野将之氏も加わり、手作りの「ポトルフォン」やタイプライター、サイレンなどの特殊楽器も登場。ダラスネオクラシックバレエ提供のバレエ映像がスクリーンに投影されるなか、息の合った演奏が行われた。また守田氏とジョルジュ・ヴェスイエールフランス語学科専任講師による解説やフランス語の朗読も行われ、コンサートは盛況のうちに幕を閉じた。

コンサートに先立ち、同日昼にダイジェスト版の演奏会も実施され、約200名が参加した。



4日間で1万人超が来学 夏のオープンキャンパスを開催

8月3日、4日、24日、25日の4日間、夏のオープンキャンパスを学内で開催した。受験を間近に控えた高校3年生に加え、夏休みの課題として参加した高校1、2年生やご父母など、遠方からの参加もあり、4日間で計10,247名の来場があった。

今回のオープンキャンパスでは、学部学科体験のほか、在学生在が高校生に学科カリキュラムや学生生活を紹介する学科企画スペースが設けられ、終日賑わいを見せていた。

また、予備校講師による入試対策講座や、受験勉強の方法など学生自らの体験を語る「在在学生によるトークライブ」には、多くの高校生が参加し、熱心にメモを取る姿が至るところで見られた。

「大学入試を目前に控えた高校3年生の真剣な姿に加えて、大学入学共通テストの導入初年度となる高校2年生と1年生の参加も多く見られた」と入試部長は語った。次回のオープンキャンパスは10月6日(日)に開催予定。



第21回全国高校生 ドイツ語スピーチコンテスト 開催

8月3日、外国語学部主催「第21回全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト」が行われた。今回は、東北地方から沖縄までの43校から169名の応募者があり、予選を勝ち抜いた21名の高校生が本選に挑み、レベルの高いスピーチを展開した。

結果発表に先立ち、「音で旅するドイツ ～知っていますか?この音楽を。知っていますか?この時代を。～」と題した演奏会が行われた。井後和恵氏(ピアノ)、ウィリアム・プランクル氏(チェロ)、与那城敬氏(バリトン)による演奏は、聴衆を魅了した。

会場の天野貞祐記念館大講堂には約200名が集まり、高校生のほつらつとしたドイツ語に聴き入っていた。

審査結果はhttp://www.dokkyo.ac.jp/news/detail/id/6996/odir/ka_d-speech/を参照。

